

令和2年度 札幌工科専門学校自己評価 集計シート		
1 学校自己評価は、本校教育経営マネジメントの一環として、1年間の教育活動、公務運営について評価を行い、反省点と課題を明らかにし、次年度の計画、改善に活かすことを目的とする。		
2 評価は、教職員が各項目について、担当者として及び全校的な視点から行うものとする。		
3 評価は下記の5段階で行うものとする。 5: 良い 4: やや良い 3: 普通 2: やや不十分 1: 不十分		
4 所見欄には、評価について補完を要することや、次年度に向けての課題や改善策等についての意見を記入する。		
5 令和3年3月12日(金)までに回答を済ませること。 すべての回答が済んだら、右を「編集集中」から「完了」に変更すること。		
完了		
I 教育理念・目標		
項目	評価	所見
①教育目標は、学生・学校の実態に即し、本校の目指す目標として適切であったか (本校の教育目標は学生の実態に適合しているか)	4.1	民間・公務員就職希望者全員内定した。 概ね適合。 公務員、自治体職員など不足する技術者の養成に大きい役割を果たしている。
②学校教育目標は、学生に周知され、学生生活を送る上での指針となっていたか (学生にとって教育目標が学生生活の指針となっているか)	3.9	施工管理試験合格率100%、測量士補校内実力(学力)試験全員合格した。 概ね指針となっている。 周知されているが、指針になっているとまでは言い難い。
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか (将来予測される業界のニーズを踏まえた教育目標か)	3.6	抱いている。 有資格者の輩出というニーズは踏まえている。
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか (学生や保護者に教育目標の意味を伝え、理解させているか)	3.5	周知している。 説明はされているが周知までは疑問がある。 近年、目標を見失いがちの学生が多い。
II 学校運営		
項目	評価	所見
①本校の経営方針について共通理解が図られ、日々の教育活動に反映されていたか。 (経営方針:教育目標を実現させるために経営者が教員に示した指針)	3.4	反映するよう努力した。 概ね反映されている。 非常勤への質問事項ではない。
②学校運営は協働体制のもと、円滑に進められたか	2.9	ほぼ反映された。 温度差はあるものの円滑におこなえた。 意思疎通、情報共有を行ってこないことでの学生に対する迅速な問題対応ができなかった弊害が起きている。単独行動をした方が良いと思われた状況もあった。 非常勤への質問事項ではない。 新型コロナ感染対策による影響は、避けられないものであった。
③学校行事は的確な計画・内容のもと、円滑に進められたか	2.7	コロナウイルス感染のため体育大会、学園祭が中止となった。 コロナ禍により実施できなかった。 コロナ禍のため中止を余儀なくされた。 非常勤への質問事項ではない。 コロナの影響で中止せざるを得なかった。
④人事、給与に関する規程等は整備されているか (イーエスの就業規則に準じる。サイボウズ内で公開)	3.2	朝の出勤時間が就業規則と合っていない。 概ね整備されている。 非常勤への質問事項ではない。 回答不可と考える。(以下空欄は同様) 整備されているが、勤務時間など実態に合わない部分がある。
⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか (発議から審議、決定までの流れが明確で組織的か)	2.9	教務については十分把握できているが財務に関しては学校評価会での資料で確認するだけである 発議から審議、決定に他人任せや優柔不断さを感じる。 非常勤への質問事項ではない。
⑥業界や地域社会等に対する法令を遵守する体制が整備されているか	3.9	常に法令順守心掛けている。 概ね整備されている。 非常勤への質問事項ではない。
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4.0	適宜、HPで公開されている。 概ね適切。 非常勤への質問事項ではない。
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.4	昨年までよりも徐々に効率化が向上している。 特定の職員でなければ対応不能の業務がある。 情報システム化への変遷半ば。 ペーパーレス化、効率化を進めている。
III 教育活動		

項目	評価	所見
①教育課程(方針・内容)は、本校の教育理念・教育目標を適切に反映されたものであったか (教育課程(カリキュラム)は教育目標を達成させる内容か)	3.8	反映するよう努力した。 概ね達成されている。 継承という意味では適合しているが、方向性としては疑問。 土木工学の入門に果している役割は大きいと思う。
②今年度の教育課程編成は、適切・効果的であったか (教育課程を動かすために必要な人材や教材を編成しているか)	3.2	一部コロナの影響でオンライン授業を行ったが学生の習熟度が2極化した。 適切ではあったが効果的であったかには疑問がある。 一部に基礎科目と発展科目の並行履修が見られた。 人材不足。 資格合格者を多数出している面で評価されると思う。 コロナの影響でオンライン授業をするなど大幅な変更があった。
③教科科目の学年配置や時数の配分は適切であったか (現行カリキュラムにおける単位の配分は適切か)	3.3	コロナの影響で同じ教科の授業が2回実施したための確であったとはいえない。 概ね適切である。 学生の質の変遷に対応しきれず無駄も多い。 自分の担当課程については十分な時数である
④シラバスの内容や使用教材は適切であったか	3.3	オンライン授業を行った成果一部シラバスのとおりできない教科があった。 概ね適切である。 継承という意味では適合しているが、方向性としては疑問。 適切と思う
⑤授業はシラバスどおりに進めることができたか	3.2	オンライン授業を行った成果一部シラバスのとおりできない教科があった。 コロナ禍により工程の変更はあったが概ね進めることができた。 スケジュールが大幅にずれた。 自分は教科書の構成順と講義内容をマッチさせるのに少し苦勞
⑥少人数制教育による指導の成果が発揮されていたか	3.6	少人数教育による指導の結果、資格試験の合格率が向上した。 合同教科によって指導の成果が発揮できていない。 少人数の定義が不明。 発揮されると思う。
⑦学生の理解度に合わせ、「よく分かる授業」の推進に努めたか	3.5	よくわかる授業をするため努力した。 合同教科によって一方的な内容になる場合もある。 検定合格が目標である限り、理解ではなくやり方偏重にならざるを得ない。 講義経験が少なく余裕のある授業が難しい。居眠りする人が出る。
⑧成績不振者への対応は適切に行われていたか	3.8	1年次成績不振の学生が2年次には再試験者数が激減した。 概ね対応した。 対応していると思う。
⑨学生による授業評価を学習指導の改善に役立てることができたか (前期・後期の2回実施)	3.0	学生の評価者氏名が記入させているので一握りの授業評価しか書かれていないのが残念である。 真面目に評価しているのは極少数の学生のみで、教員の中にも改善に役立てる姿勢を感じない方もおり、またその様な教員の指導を審査、査定する制度もない為、指導の改善には役立っていないと思う。 現実には難しい。 あまり参考にはしていない。
⑩教科科目の評価・評定は適切に行われたか (評価はシラバスに示した基準で算出しているか)	3.9	評価、評定は教務規定に基づき定期試験の他、課題の提出、出席率、授業態度等を十分考慮して行った。 概ね行われた。
⑪定期試験・追再試験の実施(時期・時間等)は適切であったか	3.7	適切であった。 コロナ禍により前期中間試験の実施が不十分であった。 概ね適切だった。 検定試験とは時期が合わない。 2回は適切と思う。
⑫資格取得指導は適切・効果的に進められたか	4.2	適切、且つ効果的であった。 適切に進められた。 いまさらOffice関連資格の必要性がどの程度あるか疑問。
⑬現場見学・インターンシップ(企業実習)は適切・効果的に進められたか	4.1	コロナの影響で実施できるか否か心配したが官庁並び企業、団体の協力で無事終了することができた。 適切に進められた。 非常勤への質問事項ではない。

⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか	3.7	就職試験面接を含め十分指導した。 教職員間に認識の差がある。 概ね適切だったが、授業中でも大声で会話を行う学生がおり、他学生の受講の妨げになるという苦情があった。 非常勤への質問事項ではない。 挨拶はできている。
⑮学生個々の理解に努め、適切な指導が行われていたか (学習指導、生活指導、進路指導)	3.7	適切に行った。 教員間で差があった。 概ね適切だった。 非常勤への質問事項ではない。
⑯体育大会、学園祭等は学生主体のもとその目的を達成できたか (体力向上と親睦、学習の成果を発揮)	2.5	中止になったので評価は1とした。次年度に期待する。 コロナ禍で実施できず。 学生主体ではなかったが目的は達成できた コロナ禍のため中止を余儀なくされた。 非常勤への質問事項ではない。 新型コロナウイルス感染対策のため、十分な成果は得られていない。
⑰関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか (関係業界との連携により得た見識を教育課程に反映しているか)	3.6	最新機器並びソフトの導入、協力企業よりの譲渡により技術面での企業と隔たりはないと感じる。 まだ途上である。 概ね行われた。 非常勤への質問事項ではない。 書面開催で行った。
⑱職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか (学校関係者評価、教育課程編成委員会の意見を活かしているか)	3.7	求人企業面談には十分時間を取り現在の業界の状況及び展望等の情報を入手し参考に入れている。 概ね生かされている。 非常勤への質問事項ではない。 書面開催で行った。
⑲人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか (将来、学校の中核を担う若手教員を確保し、その育成に努めているか)	2.5	確保できていない。 緊急に測量に関する専門の養成施設登録に必要な専任教員の該当者の確保が必要であり、将来に向けた若手教員の育成が急務である。 人材不足。 若手が不足している。
⑳関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など 資質向上のための取組が行われているか	3.0	測量士、1級土木施工管理技士の取得者が少ない。 教員各個人の努力による。 自己啓発支援制度があるがコロナ禍の影響もあり、講習会中止やコロナ対策の業務等の対応により有意義に活用できなかった。 非常勤への質問事項ではない。
IV 学修成果		
項目	評価	所見
①教育目標の達成度 (1)基礎学力の向上	3.7	向上している。 概ね向上が図られた
②教育目標の達成度 (2)専門の基礎知識・技術の習得	3.8	習得できている。 概ね習得が図られた
③教育目標の達成度 (3)社会人になるためのマナーと教養を身につける	3.7	図られている。 教員間で差があった。 概ね図られている
④進学率や就職率の向上が図られているか	4.3	就職希望者全員内定した。 概ね向上が図られた 非常勤への質問事項ではない。
⑤資格取得率の向上が図られているか	4.3	図られた。 概ね向上が図られた 非常勤への質問事項ではない。
⑥退学率の低減が図られているか	3.2	他の大学、専門学校との退学率より退学率は低い。 概ね図られている 非常勤への質問事項ではない。
⑦卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4	卒業生の中で退職者が数名出ているので評価しにくい。 ある程度は把握している 非常勤への質問事項ではない。

⑧卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか (卒業生より本校への要望を聞き入れ改善しているか)	3.5	建設協会の団体での学生支援対策等の会議で本校の奨学金等に関する情報交換に積極的に参加している。 少しずつ改善している。 非常勤への質問事項ではない。
---	-----	--

V 学生支援		
項目	評価	所見
①進路指導は学生のニーズ・適性等に即し、適切に進められたか	4.0	登校時、下校時のHRには必ず学生指導を欠かさずしている。 概ね進められた。 非常勤への質問事項ではない。
②保護者との連携は密接・効果的に行われていたか	3.6	必要であればコンタクトを取っている。 必要に応じて行った。 非常勤への質問事項ではない。
③基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	3.5	無断遅刻者には始末書の提出をさせた。 概ね行われた。 非常勤への質問事項ではない。
④学生の安全管理のための取組等が行われているか (学生を事件・事故から守る手立てを事前に行っているか)	3.5	危機管理マニュアルを作成している。事故が発生すれば、マニュアルに従って対応することになっている。 必要な時はHRの他スラックで学生に伝えた。 概ね行われた。 非常勤への質問事項ではない。 マニュアルを制定している。
⑤学生・保護者からの相談体制が整備されているか	3.6	整備されている。 学生や保護者に合わせて対応を行った。 非常勤への質問事項ではない。
⑥進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4.0	整備されている。 概ね整備されている。 非常勤への質問事項ではない。 就職率100%を達成した。
⑦学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.8	奨学金等整備されている。 概ね整備されている。 非常勤への質問事項ではない。 給付型奨学金の認定校であるほか、社会人や企業も条件により助成金を利用できる。
⑧学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	3.8	学生から1人のコロナ感染者を出すことなく学年末を終えた。 コロナ禍での健康管理組織体制は整備されつつある。 非常勤への質問事項ではない。
⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.8	コロナの影響で課外活動は慎むよう指導した。 コロナ禍のため中止を余儀なくされた。 非常勤への質問事項ではない。
⑩学生の生活環境への支援は行われているか	3.3	相談があればいつでも面談できる状況にしている。 緊急事態の疑いがある場合は迅速に対応を行った 非常勤への質問事項ではない。
⑪卒業生への支援体制はあるか	3.5	求人企業には卒業者の中で転職希望者等が出れば紹介を受け入れを伝えている。 希望があれば対応している 非常勤への質問事項ではない。
⑫社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか (本校の教育力を一般の方に提供する環境はあるか)	3.3	整備されている。 概ね整備されている。 非常勤への質問事項ではない。 北海道職員の研修依頼に応えている。

VI 教育環境		
項目	評価	所見
①教室・実験室等の規模や配置は適切であったか	3.3	コロナ禍中の学生を分散し授業を展開できたことには安堵している。しかし、土木実験室については改善できていない。 三密に極めて近い状況の教室もあった。 やや狭いところが見られる 実験室のスペースは、人数に対応できていない。 少人数教室は評価される
②校舎内外の施設設備の充実、維持管理は適切であったか	3.3	適切であった。 概ね適切である。 全面禁煙にすべき。 維持されている

③実験実習設備、機械類の整備・活用は適切であったか	3.3	適切であった。 概ね適切である。 パワーポイントを、その都度セットする必要(教室)がある。
④蔵書を含めて図書閲覧のニーズに応えられていたか	3.0	読書するゆとりとしたスペースが必要。 学生が閲覧できる書棚に最新書籍が少ない。 利用促進を図るべき。
⑤情報機器の充実及び活用状況は適切であったか	3.8	適切であった。 概ね適切である。 パソコンで不自由はなかった。
⑥校舎は衛生的(清掃・美化)に管理されていたか	3.8	コロナ感染を阻止するため清掃については十分できた。 概ね管理されている。 清掃されている。
⑦防災に対する体制は整備されているか	3.5	訓練により避難経路を確認させた。本年度も最終施錠者をきめ管理した。 概ね整備されているが、教員の周知度に不安がある。 特に旧校舎は耐震基準を満たしているか疑問。 問題はないと思う。
VII 学生の受け入れ募集		
項目	評価	所見
①学生募集及び入学選考は、時代の変化、学生の実態に対応したものとなっていたか (少子化、大学全入時代による一般学生の減少。基礎学力、学習適応力の欠如)	3.2	インターネット社会になって情報が豊富であるが常識不足の者もいるので今後ともそのような学生には指導が必要である。 入学選考基準に曖昧さがある。優れた人材育成の為の入学試験の目的、内容を一部見直しても良いのではと感じる。 可否の基準を明確にすべき。学生枠と社会人枠の試験内容を変えるべき。 少子化の中で、SNSなど活用した幅広い情宣が必要でないか AO入試を取り入れ出願者が増加した。
②広報活動(体験入学を含む)の内容、方法、実施時期等は適切であったか	3.4	体験入学の日程については適切であった。 概ね適切である。 YouTubeや広告の検討も必要では？ 卒業先輩からの勧誘、子弟への広報など、色々な方法が必要かと思う コロナの影響で相談会の多くが中止・延期、高校訪問もあまりできなかった。 WEBコンテンツの強化が求められる。
③学納金は妥当なものとなっているか	3.7	妥当である。特例入学制度もあるので、下げる必要はない。 概ね妥当である。 ディスカウントは体力勝負の消耗戦になるだけなのでやめるべき。 他校より安価と思う。値上げしても仕方ないと思う。
VIII 財務		
項目	評価	所見
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか (本校HPの情報公開にて開示)	3.3	安定しているから道内の土木・測量・造園・林業の技術系技術専門学校として続けられてきた。 概ね安定している。 非常勤への質問事項ではない。
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.5	妥当なものとなっている。 概ね妥当である。 非常勤への質問事項ではない。
③財務についての会計監査が適正に行われているか	4.2	税理士のもと管理が徹底されている。 適切に行われている。 非常勤への質問事項ではない。
IX 法令等の遵守		
項目	評価	所見
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか (専修学校設置基準)	4.1	適切な運営がなされている。 概ね運営がなされている。
②個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	3.5	現在のところ情報は保護されているが今後IT環境が変わるにつれセキュリティーの徹底をさらに図られなければならない。 IT化の進展に伴う変化に対応するため、個人情報の取扱いについて対策が必要と感じる。 個人情報保護の教育が不十分。
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.7	行っている。 行っている。

④自己評価結果を公開しているか (本校HPの情報公開にて開示)	4.3	開示されている。 公開されている。
------------------------------------	-----	----------------------

<p>X 教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点</p>
<p>・今年度はコロナ禍で授業が行われて、授業の準備などが昨年度とは比較にならないくらい大変な年でした。このことは教員だけではなく、学生も我慢を強いられそれなりに大変だったと思います。引き続き、新年度も同様にコロナ感染を防止しながらの授業を行わなければならないので、また年間一致団結して乗り切っていかなければならないと考えています。</p> <p>〈昨年と比較してよかった点〉</p> <p>①コロナ感染予防の徹底を図り一人の感染者を出すことなく、全教科を修了させ卒業・進級させたこと。</p> <p>②昨年同様、公務員、民間就職希望者全員内定したこと。</p> <p>〈昨年と比べ悪かった点〉</p> <p>①留年者1名、退学者3名出たこと。</p> <p>②オンライン授業で学生、教員ともに不慣れな状態での授業が行う必要になったと。また、習熟度について十分理解したもの、全く理解していないものが対面授業で顕著に表れた。そのため再履修を行い一部カリキュラム通り最後まで行うことができない授業もあった。</p> <p>③コロナ禍の中、学生を分散して行う必要になり同じ教科を週2回実施する必要になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにかしらの問題を抱えた学生が入学している ・人材育成のために、官民学が一体となり技術や情報等を共有して、学生の意欲や技術力の向上に当たるべき雰囲気を感じられ始めている。 ・例年に増して変化への対応が急激に求められた年であり、今後も時代の変化に注目して、新技術の認識不足や活用不足とならぬよう、年齢を理由に止まることなく研究とスキルアップを続ける事が教職員にも求められると考える。 ・本校は道内唯一の測量に関する専門の養成施設であり、公務員や企業に有意な人材を送り続けていると考える。養成施設が失われた場合、道内の測量技術者の人材育成は大きく遅れると予想される。測量士補を養成する施設の登録を受け続けるために専任教員の確保は急務である。 ・コロナ禍の中、早期にZoomによる遠隔授業を開始し、全校生徒の検温の徹底を図り、登校前の校舎内の清掃・消毒に取り組みました。俊敏な対応により、この1年は学校内にコロナ感染症に罹患する生徒や教員を出さずに済みました。ここまで徹底した対応をとれた専門学校は多くないと思います。理事長様をはじめ、㈱イーエスの全面的な支援と協力により対応できたと思います。 ・緊急事態宣言により対面授業の制限や、授業スケジュールの変更などで予定内容を割愛せざるを得なかった。 ・環境が大きく変わる中で、対面授業ができたことが大変良かった。 ・緊急事態宣言時にはZoomによるオンライン授業で対応できた。また、Googleフォームやスプレッドシート等を活用して少しずつ業務の効率化を図っている。しかし、IT関係には教員の技術面・意欲面の差が大きいと思う。 ・学生の就職・資格には例年通り成果をあげることができた。